

令和 4 年 度

事業計画書

社会福祉法人 洛南福社会

総施設長	施設長	施設長
		

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福社会
管理職

【令和4年度 方針】

法人理念を念頭におき、全職員が笑顔で働ける職場環境をつくる。また全職員がご利用者の笑顔を引き出せるために思考していく。

ご利用者だけでなく、ご家族や地域住民に洛南福社会を認知してもらえようサービスの更新と発信を行う。

【重点目標】

1. 人材の確保、育成

- ・次世代の管理職を育成し、法人の組織力を強化する。
- ・本質を理解し、目的・目標を意識して仕事ができるような指導管理を行う。
- ・職員のモチベーションアップの一つとして、キャリアパスを意識した、新たな処遇改善加算等を設定する。
- ・中長期的な人材確保計画を作成する。

2. ご利用者の生活の質の向上

- ・認知症ケアについて、職員の資格取得者の増加を計画する。
- ・「絆」のポテンシャルを引き出し利用者の情報を効率よく集める。
- ・ご利用者だけではなく、ご家族の満足度の大切さを理解する。
- ・ご利用者の笑顔が多くなるよう、各サービスの質について検証と更新を行う。

3. 地域の安心の拠点となる活動

- ・地域に必要な社会資源として、必要とされたときに行動できる組織になる。
- ・拠点単位で地域との関りをもつ。

4. 経営の安定

- ・全拠点でBCPを完成させる。
- ・ランランルンルンスマイルケアの運営を安定させる。
- ・ご利用者の声を聴き、サービス内容を更新することで、ニーズを拡大させる。
- ・全事業黒字化を前提に、さらに高稼働に繋がるよう、助言・指導を行う。

令和 4 年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
特別養護老人ホーム ヴィラ向島

【令和4年度 方針】

「今できる事、やりたい事を大切に」をコンセプトとし、できる方法を常に模索する。
行事の充実や、行った事の発信を行い、ご利用者のご家族、職員の笑顔の回数が更に増えるよう取り組んでいく。

【重点目標】

1. 愛あるサービスの提供

- ・情報収集のツールを活用し、ご利用者の生活背景を知る。
- ・担当ご利用者の情報収集を行い、一人のご利用者に対し一つは「その人らしい」と思えるケアを書き出し実践する。
- ・離れていてもご利用者の笑顔が伝わるよう、SNSでの発信や更新を行い、ご家族にも笑顔を届ける。
- ・認知症ケア向上の為、認知症実践者研修及び認知症介護実践リーダー研修へ参加する。

2. 食生活の充実

- ・誕生日を中心に食べたい物リストを更新し、定期的に提供する。
- ・季節ごとに面筋を実施する。

3. 感染対策

- ・感染拡大を予防する為、マニュアルの見直しを行い上半期(6月)、下半期(1月)に一度ずつ初動対応の訓練を実施する。

4. 稼働率の安定

- ・特養の空床活用できるよう、ショートステイ相談員と常に情報共有を行う。
- ・新規入所は、退所後7日以内。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福社会
総務部

【令和4年度 方針】

令和4年度は、従来の介護職員処遇改善加算と特定処遇改善加算に加え、9月までの交付金と10月からの新規処遇改善加算があり、加算を活用し資格手当の増額及び他手当の導入を行い、在籍職員の安定とともに求職者に対する給与面のイメージアップを図る。

人材について、昨年度に引き続き職員の確保に力を入れて運営を安定化させる。4月より新規認知症デイサービスセンター（ランランルンルスマイルケア）がオープンする為、今後の展望を見据えて常勤職員の採用には特に力を入れ、全職員が笑顔で働ける職場環境をつくる。

【重点目標】

1. 会計の分析

- ・毎月の各部署の稼働率と収支を把握し、安定した施設運営を行う。
- ・半期決算を行い事業計画の進捗状況を把握。

2. 人材の確保

- ・各部署と連携し、実習生にアプローチを行う事で2名以上の新卒採用に繋げる。
- ・就職フェアをはじめとした就職イベントへの積極的な参加。
- ・各都道府県の介護職員の養成校の求人票を送付。
- ・常に余裕を持って人材を採用できるように紹介会社等との関係構築とリスト化を行う。
- ・キャリアパスを見直し、求職者へのアピールと在籍職員のモチベーションの向上。

3. 事務作業の効率化

- ・業務マニュアルの作成（月間・年間）。
- ・社会保険業務をオンライン化し時間・コストの削減。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
ヴィラ向島 ショートステイ

【令和4年度 方針】

特養との一体の流れの中で、ご利用者の在宅生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、本人様・家族様が安心して利用出来るサービスの提供を行う。

利用した際には「また来たい・楽しかった」と思えるよう、新たな取り組みを思考する。

【重点目標】

1. 稼働率の安定

- ・ショートステイのベット数だけで稼働率 90%以上を標準にする。
- ・特養の空床活用を行う為に特養相談員と常に情報共有を行い、急なキャンセルにも対応出来るよう柔軟な利用が可能な利用者の獲得。

2. ご利用者へのサービスの質の向上

- ・ベットメイク、掃除、居室整備の「出来ていなかった」をなくす。
- ・返却忘れを減らすために荷物チェックアプリを最大限活用し、ショートステイをもっと気軽に利用出来るよう、アメニティを準備し、ご家族の負担を軽減する。
- ・在宅の環境に近い状態を作るために写真や動画を使用し、全員が共通で確認できるツールの作成を行う。

3. 過ごし方の充実

- ・特養行事に積極的に参加してもらえるよう調整し、様子をご家族やケアマネジャーに SNS やビデオ通話を活用し、発信する。

4. 笑顔で食事

- ・ご利用者の好物や持病などの把握をし、安心・安全な食事の提供を行う。
- ・食事はご利用者にとって最大の楽しみの一つであることから、季節に合ったメニューや行事食(スイーツも含む)の提供を行う。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
ヴィラ向島デイサービスセンター

【令和4年度 方針】

ご利用者が達成感、満足感を満たすことができるサービスを提供するため、個々の職員の強みを生かすサービス提供を目指す。ご利用者の満足が職員の満足、自己実現につながるサービスとは何かを思考する。

ヴィラ向島デイサービスに目的をもってご利用いただけるように、通所介護の枠組みに収まらないような他のサービスと差別化を図り付加価値とは何かを探求しデイサービスの魅力発信を行う。

【重点目標】

1. 人材確保及び人材育成

- ①スキルアップ、キャリアアップの為に資格取得を奨励し、リーダー候補になるような人材を育成する。
- ②資格取得を奨励し、専門職としての意識を高め、個々の利用者理解と必要とされる介護技術・知識を発揮できるように指導を行う。
- ③職員のモチベーションアップの為に職員が持つ特技や趣味をサービス内容に組み入れることで自己実現やさらなるレベルアップ・新たな発想、成長を促す。
- ④大学、養成校との連携を強化し、実習生・アルバイトの受け入れのみならず、デイサービスとしての学習機会の提供や授業内容についての協力を行う。

2. ご利用者の満足度の向上

- ①ご利用者の生活歴を見直し、現状のケアで「思い出す」「まだできる」機会を作る。
- ②ご利用者だけでなくご家族がサービス内容に興味関心をもてるように機関誌を毎月発行し活動内容や今後の予定を知ってもらえる機会を作る。
- ③農園を活用し「育てる」「収穫する」「食べる」楽しみと継続性を持たせる。
- ④通所5センターでの企画を計画・実施し、ご利用者・職員の交流を行う。

3. 事業運営の安定化

- ①通所5センターで情報共有を緊密化し、通所サービスの連動性を強化する。
- ②近隣の居宅介護支援事業所のみならず、今まで関わりのなかった居宅介護支援事業所にも営業をかけ、営業エリア内での新たな利用者の獲得をする。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人洛南福祉会
ヴィラ向島居宅介護支援事業所

【令和4年度 方針】

ご利用者に対し、介護保険法の趣旨と法人理念に則り、ご利用者が可能な限り居宅において笑顔で自立した生活を営むことができるように支援をしていく。

新型コロナウイルスをはじめとする感染症や災害がおきても、ご利用者が住み慣れた地域で生活できるように地域の住民や社会資源と日頃から連携を図る。

【重点目標】

1. 経営の安定化と非常時の備え

- ・運営基準を理解し居宅介護支援運営基準を順守する。
- ・介護支援専門員1名あたり月35件のケアプラン作成を実施する。
- ・人材を確保し特定事業所加算Ⅲの算定を開始する。
- ・BCPを策定し対応できる体制を整える。
- ・絆システムなど、ICTの活用を検討する。
- ・居宅予防支援会議を活用し、運営適正状況を確認する。

2. 人材育成と専門性の向上

- ・当事業所介護支援専門員に対し、個別具体的な研修プログラムを策定し、アセスメント能力、認知症ケアの知識を高めるため、研修を実施する。
- ・半年に1回以上スーパービジョンを実施する。

3. 地域包括ケアの推進

- ・地域包括支援センターや地域住民、医療機関、サービス事業所だけではなく、向島全域のあらゆる社会資源の情報収集に努め、向島地域の地域資源リストを作成する。

4. 働きやすい職場環境づくり

- ・日常的に職員同士で前向きな意見交換ができる雰囲気を作る。
- ・事業所内のハラスメントを防止する。
- ・スーパービジョンを通して、職員の意見を聴取する機会を作る。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
ヘルパーステーション ヴィラ向島
ヘルパーステーション ヴィラ観月橋

【令和4年度 方針】

ヘルパーはご利用者が住み慣れた家で、その人が望む暮らしを継続していく上での中核を担っていることをひとり一人が認識し、その誇りと責任をもちサービスを提供していく。

【重点目標】

① 人材の確保

- ・若い人にヘルパーの仕事を身近なものに感じてもらうため、月に1回はSNSを投稿し魅力発信を行う。
- ・多様な働き方に対応することで、長期的に働ける人材を確保する。
- ・若い人材を確保するため、他部署と連携を図り、積極的に実習生を受け入れる。

② 職員の資質向上

- ・サービス提供責任者をはじめとしたヘルパー全員が個別援助計画書の目標の意味を理解したうえで支援を行う。
- ・ヘルパー会議にて自立支援について研修を行う。
- ・ヘルパー会議の在り方を検討、改善する。

③ 安定した事業運営

- ・両事業所で空き枠や職員体制の情報共有を行うことで、稼働を安定させる。
- ・空き枠に対して、新規に拘らず適切なアセスメントをしたうえで増回の提案を行い、空き枠を埋めていく。
- ・訪問スケジュールを効率よく組むことで、緊急時や多様なニーズに対応できるようにする。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
ケアハウス サウスヴィレッジ向島

【令和4年度 方針】

洛南福祉会の法人理念である「共に生き、笑顔で支えあう暮らしづくり」に基づき活動する。

自立支援を念頭に『入居者自らができる事を見つけ実行できる環境づくり』と『毎日が新鮮で快適な住まいづくり』に努める。

【重点目標】

1. 安心で快適な暮らしの提供

- ・日々のコミュニケーションや入居者懇談会を通じて入居者のニーズを聞き実現できるように思考する。
- ・年に1回、入居者に聞き取りを行いアセスメントシートの更新をすることで心身の状況を把握する。
- ・コロナ禍でご家族との面会制限があるなかで、ご家族に安心してもらうためにSNSでの日々の出来事の発信や個別に連絡をとる基準を職員間で決定する。

2. 入居者確保の為の広報活動の実施

- ・ホームページやSNS等を活用しケアハウスの存在や魅力を発信する。
- ・少しでも自立度の高い入居者を確保する為、施設検索サイトのみならず月に1回の地域包括への営業や、定期的に地域へポスティングを継続する。

3. 災害・感染症等に対する取り組み

- ・入居者と共に実践的な防災・災害訓練を実施する。
- ・災害・感染症共にBCPを整備する。

4. 職員の資質向上

- ・常に入居者の立場で支援が出来ているかの振り返りと、より良いサービスを提供するために、認知症をはじめ人権や尊厳について学ぶ。

令和 4 年度 <年間行事計画 >

開催日時	行事内容	食事の内容	開催場所	備考
4月	花見ドライブ	昼食弁当注文	未定	外出希望者のみ
6月	降誕会 (種智院大学)		ケアハウス玄関	自由参加
8月	納涼祭	夕食	デイサービスフロア 施設駐車場	希望者のみ
9月中旬	敬老祝賀会	昼食松花堂	ケアハウス食堂	自由参加
	茶話会	お茶菓子	ケアハウス食堂	自由参加
10月	食事ツアー	外食	未定	外出希望者のみ
	ハロウィン		ケアハウス玄関	自由参加
12月下旬	クリスマス会 (すばる高校吹奏楽部)	クリスマス ケーキ	ケアハウス食堂	自由参加
	もちつき大会	きなこ餅等	施設中庭	自由参加
1月上旬	元旦	昼食おせち料理	ケアハウス食堂	
	新年会	昼食	ケアハウス食堂	希望者のみ
2月	節分	巻き寿司 いわし	ケアハウス食堂	
	寿司パーティ	昼食寿司	ケアハウス食堂	希望者のみ
3月下旬	定期演奏会 (すばる高校吹奏楽部)		文化パルク城陽	外出希望者のみ

<月間イベント・サークル活動計画(案)>

開催日時	イベント内容	開催場所	備考
毎月 第1木曜日	買い物ツアー	近商かベルファ	事前申し込みあり
毎月 第1木曜日	コーヒーの日	ケアハウス食堂	自由参加
毎月 第2日曜日	カラオケ	ケアハウス食堂	事前申し込みあり
不定期	喫茶店	ケアハウス食堂	事前申し込みあり

※ 書道・茶道・絵手紙・音楽レクリエーションは、新型コロナ流行の為、当面中止となっています。

その他

- ・閉じこもり防止、筋力増強：簡単な体操（腰痛や転倒予防）
- ・認知症予防：頭の体操（クイズ・手遊び・漢字・計算）
- ・季節の食事（春・夏・秋・冬）

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福社会
元源 深草

【 令和4年度 方針 】

法人理念を意識し、専門職としての知識、経験をもとに日々協働する。また、短時間・入浴特化型の特性を活かし、地域に必要な社会資源となれるよう、ご利用者が満足し、継続して頂けるサービスを提供する。

地域住民・関係事業所との連携強化に努めるとともに、ご利用者・ご家族、地域のニーズに合わせた通所サービスを提供し、安定的な事業運営を行う。

【 重点目標 】

1. 人材の定着・育成

- ・介護ランク制度基礎ランクの全職員合格を目標に、知識と技術を高める。
- ・法人内デイサービス5センターでの企画を計画・実施し、ご利用者・職員の交流を深める。
- ・ケアプランセンターあかつきと連携し合同で委員会や研修を実施する。

2. ご利用者にとっての「楽しみ」を追求する

- ・日々の関わりや満足度アンケートからご利用者のニーズを聞き、お楽しみ企画等の取り組みに繋げ、PDCAサイクルを実践する。
- ・ご利用者に安心してご利用頂けるよう、日々の関わりから情報収集及びアセスメント力の向上を行う。

3. 地域連携の維持・拡大

- ・地域ケア会議・運営推進会議に参加するとともに SNS を活用し、事業所の活動をアピールする事で、地域に開かれたデイサービスを目指す。
- ・ケアプランセンターあかつきと協力し、地域と連携を図り活動に参加する。

4. 稼働率 93%以上を目標に、ご利用者獲得と運営の安定

- ・ケアプランセンターあかつきと防災委員会を立ち上げ BCP を策定し対応できる体制を整える。
- ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などの関係機関との連携を積極的に行う。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人洛南福祉会
ケアプランセンターあかつき

【令和4年度 方針】

ご利用者に対し、介護保険法の趣旨と法人理念に則り、ご利用者が可能な限り居宅において笑顔で自立した生活を営むことができるように支援をしていく。

地域住民、関係機関との更なる関係強化に努め、新型コロナウイルスをはじめとする感染症や災害がおきても、ご利用者が住み慣れた地域で生活できるように日頃から連携を図る。

【重点目標】

1. 経営の安定化と非常時の備え

- ・運営基準を理解し居宅介護支援運営基準を順守する。
- ・介護支援専門員1名あたり月35件のケアプラン作成を実施する。
- ・特定事業所加算Ⅲの算定を維持する。
- ・元源深草と防災委員会を立ち上げBCPを策定し対応できる体制を整える。
- ・絆システムなど、ICTの活用を検討する。
- ・居宅予防支援会議を活用し、運営適正状況を確認する。

2. 人材育成と専門性の向上

- ・当事業所介護支援専門員に対し、個別具体的な研修プログラムを策定し、アセスメント能力、認知症ケアの知識を高めるための研修を実施する。
- ・2ヶ月に1回以上スーパービジョンを実施する。
- ・元源深草と連携し合同で委員会や研修を実施する。

3. 地域包括ケアの推進

- ・事業者連絡会に役員として参加する。
- ・元源深草と協力し、地域と連携を図り活動に参加する。

4. 働きやすい職場環境づくり

- ・日常的に職員同士で前向きな意見交換ができる雰囲気を作る。
- ・事業所内のハラスメントを防止する。
- ・スーパービジョンを通して、職員の意見を聴取する機会を作る。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
ランランルンルンスマイルケア

【令4年度 方針】

- ・法人理念を意識し、認知症の方が「まだまだやれる」「自分の居場所」と思っただけのような通所介護事業所を目指す。
- ・ご利用者が住み慣れた地域で楽しく暮らしを続けられるよう、居宅サービス事業者・地域の関係者との連携に努める。
- ・地域包括支援センターと協力・連携し、地域に開かれた認知症対応型デイサービスとして事業運営を行う。

【重点目標】

1. 認知症ケアの追求

- ・利用者理解を深める為、月1回以上、認知症に関する勉強会を実施する。
- ・認知症実践者研修等、認知症に関わる外部研修に参加する。

2. ご利用者の「できること」の維持、「役割」の獲得、「認知症」の緩和

- ・ご利用者一人ひとりのできることへ着目し、日々の関りで情報収集を行い職員間で共有、ご利用者ができることの実践に繋げる。
- ・家事・買い物・外出等できる活動・役割を提供し、ご利用者の自信・喜びに繋げる。
- ・現実見当識訓練を軸に、ご利用者の五感に働きかけ不安や混乱の解消及びBPSDの改善・認知症の進行予防を行う。
- ・通所5センターの企画を計画・実施し、事業所間の連携とご利用者、職員の交流を行う。

3. 地域との関係構築

- ・併設の向島地域包括支援センターと連携し、合同研修の実施・地域会議等に参加、認知症高齢者が地域で生活できるよう支援する。
- ・運営推進会議の開催・SNSを活用した事業所の活動を広く発信する。

4. 目標稼働年間平均60%、定員枠のご利用者獲得

- ・法人内外の居宅介護支援事業所・地域包括支援センターに週1回以上、営業活動を行い早期のご利用者獲得を行う。

令和4年度事業計画

社会福祉法人 洛南福社会
京都市向島地域包括支援センター

【令和4年度 方針】

法人理念を念頭に、向島地域の高齢者が共に生き、笑顔で支え合える暮らしの実現に向けた、地域包括ケアシステムの構築を推進していく。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い困難となった 「顔の見える関係作り」について、職員全員で新たなアイデアを出し合い、感染対策を講じながら取り組んでいく。また、災害や感染症など、不測の事態への対応を各関係機関と連携を図れるように思考していく。

【重点目標】

1. 職場環境や人材育成

- ・職員同士が個別支援や業務において活発な意見交換を行い、働きやすい職場環境を作る。
- ・業務に必要な研修に積極的に参加し、センター内でフィードバック研修を実施する。

2. 地域包括ケアシステムの構築

- ・地域の高齢者が住み慣れた向島地域で、介護予防や健康づくりに取り組めるような居場所を各関係機関と共同して作る。

3. 地域の安心の拠点となる活動

- ・地域ケア会議を開催し、高齢者個人の支援の充実やそれを支える地域社会の基盤を構築する。
- ・併設のランランルンルスマイルケアと連携して、認知症高齢者が向島地域で生活できるよう支援する。

4. 経営の安定と非常時の備え

- ・絆システムやICTを活用方法を見直し、効率的に遂行する。
- ・業務継続計画（BCP）を作成し、各関係機関と連携を図り、非常時に備える。
- ・居宅予防支援会議を活用し、お互いの運営適正状況を確認する。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
特別養護老人ホーム レーベン横大路

【 令和4年度 方針 】

法人理念を念頭におき、ご入居者の個性を尊重し、能力や生活背景、および健康状態に視点を向けることで安心できる生活環境を作り、笑顔を引き出せるように関わりを持つ。

地域密着型特別養護老人ホームとして、地域に存在する社会資源との共働の機会を増やし、地域福祉発展への貢献度を高める。

【 重点目標 】

1. サービスの質の向上

- ・ご入居者・ご家族と共に、日常生活の中にある楽しみや喜びとは何かを考え、3ヶ月に1回ご家族に近況報告を送り、ご入居者・ご家族の満足度を高める。
- ・健康状態や生活背景にあるご入居者の「やりたいこと」「できること」に焦点を当て、日頃の様子や専門職としての情報をユニット会議で共有し、安定したケアを行う。
- ・ICTを活用し、情報収集・整理を行い、加算算定に必要なデータ管理、提出を多職種で連携し行う。

2. 人材の確保、育成、定着

- ・実習受け入れを通して、人材の確保、実習指導者のスキルアップを行う。
- ・新人育成・指導マニュアルを活用しながら、新人職員の個々人に合わせた育成を行う。
- ・職員の意向を確認しつつ、資格取得に向けて研修の受講や外部研修の受講を計画的に勧める。
- ・職員がやりがいをもって働き続けられるように、チームとしての連携を強化し、ユニットリーダーを中心として各職員と定期的にコミュニケーションをとる機会を作る。

3. 稼働率の安定化

- ・ご入居者の身体面、精神面の変化を早期発見し、健康管理を行う。
- ・年間平均稼働率をショートステイと合算で94%以上を目指す。
- ・BCPを作成し、感染症対策、災害時に対応ができるよう実践に繋げる。

4. 地域の安心の拠点となる活動

- ・地域社会の一員として住民や社会資源と連携し、地域福祉の増進に寄与する。
- ・SNSを活用し、施設の生活が見える情報発信を行う。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
レーベン横大路ショートステイ

【 令和4年度 方針 】

法人理念を念頭におき、ご利用者の個性を尊重し、能力や生活背景および健康状態に視点を向けることで、生活の場所が変わっても安心して生活できる環境を作り、在宅生活が継続できるような関わりをもつ。

生活の場所の一つとして、ご利用者が自ら「レーベン横大路に行きたい」と思えるショートステイを目指す。

【 重点目標 】

1. サービスの質の向上

- ・ご家族、他サービス事業所から利用前の様子等の情報収集を行い、ご家族が利用中の様子がより具体的にわかるような申し送りを行う。
- ・利用前にご利用者、同居家族の健康状態の確認を行い、感染症予防を行う。
- ・ご利用者同士の交流を促進し、ショートステイ利用中ならではの楽しみを提供する。
- ・ICTを活用し、情報収集・整理を行い、ご入居者情報を効率よく多職種間で共有する。

2. 人材の確保、育成、定着

- ・職員の意向を確認しつつ、様々な資格取得に向けて研修の受講・外部研修の受講を計画的に勧める。
- ・特別養護老人ホームと一体的なサービス提供ができるよう情報交換を行い、相互に専門性を高め合う。
- ・職員がやりがいをもって働き続けられるように、チームとしての連携を強化し、ユニットリーダーを中心として各職員と定期的にコミュニケーションをとる機会を作る。

3. 稼働率の安定化

- ・居宅介護支援事業所に、特別養護老人ホームの空床状況も含めた空室の情報提供を行い、新規利用者の獲得・緊急利用の積極的な受け入れを行う。
- ・年間平均稼働率、特別養護老人ホームと合算で94%以上を目指す。
- ・BCPを作成し、感染症対策、災害時に対応ができるよう実践に繋げる。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
レーベン横大路 デイサービスセンター

【令和4年度 方針】

法人理念を念頭におき、ご利用者に「レーベン横大路に行きたい」「利用が楽しみ」「行けばこれができる」と思っただけのような通所介護を目指す。
ご利用者にとって居心地のよい「居場所」、ご家族や関係事業所にとって安心と信頼できるサービス提供に努める。

【重点目標】

1. 人材定着及び人材育成

- ・職員が意見交換しやすい雰囲気づくりや機会を持ち、働き続けられる職場づくりを行う。
- ・法人の介護ランク制度基礎ランク全員合格、介護福祉士資格取得者増を目標に専門性を高める。

2. ご利用者の「やりたいこと」「できること」を大切に

- ・自宅でされていることはご利用中でもできる環境と、さまざまな場面で「選ぶ」機会が多く持てるような取り組みや対応を実践する。
- ・ご利用者自身が動く・書く・見る・聞く・触る・味わう・匂うことで、ワクワクしていただけるような毎月の行事やイベント、日々の活動の中に取り入れ実施する。
- ・毎週1回カンファレンス実施し、本質を理解し根拠をもとに利用者理解と対応、情報共有を行う。
- ・通所5センターの企画を計画・実施し、事業所間の連携とご利用者・職員の交流を行う。

3. 地域連携の維持・拡大

- ・SNSの活用、地域のこども園や学校との交流、地域の活動に参加し、事業所をアピールするとともに、地域に開かれたデイサービスを目指す。

4. 定員枠上限までを目標に利用者獲得と運営の安定

- ・定員枠上限までの登録維持に努め、年間平均93%以上を目標に稼働の安定を目指す。
- ・BCPの完成、スタッフ全員が内容を理解し実践する。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
元 源

【 令和4年度 方針 】

- ・ 法人理念を意識し、ご利用者・家族、職員の「繋がり」を大切にし、みんなが笑顔になれるようなサービスを提供する。
- ・ 短時間の入浴特化型ではあるが、入浴だけにとらわれず、安らぎの空間を提供する。
- ・ ご利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしの継続のために、他のサービス事業者・地域の関係者との連携に努める。

【 重点目標 】

1. 職員の資質向上

- ・ 施設内外の研修や部署内での勉強会の計画・実施。
専門知識向上の為に、全員が法人の介護ランク制度Cランク合格を目指す。
- ・ 毎月のミーティングで、基礎を振り返り実践に繋げることで必要な介護技術を身につける。
- ・ 法人内デイサービス5センターでの企画を計画・実施し、ご利用者・職員の交流を行う。

2. ご利用者・ご家族との「コミュニケーション」を大切にする

- ・ ご利用者、ご家族からのニーズに対し、迅速な対応をすること。
- ・ 「ご利用者満足度調査」の継続と質の向上・内容の充実を実践する。

3. 地域連携の維持・拡大

- ・ 運営推進会議等で事業所のアピールをするとともに、SNSの活用・地域の活動に参加する。
- ・ 地域への働きかけや、定期的な学校・こども園との交流を行う。

4. 事業運営の安定

- ・ 法人内外の居宅介護支援事業所等の関係施設と連携を深め、毎月の営業活動に力を入れ、稼働率の向上を目指す。
- ・ 定員枠上限までの登録維持と稼働93%以上を目指す。
- ・ BPCの完成、職員全員が内容を理解し実践する。

令和4年度 事業計画

社会福祉法人 洛南福祉会
レーベン横大路居宅介護支援事業所

【 令和4年度 方針 】

法人理念を念頭におき「ご利用者や職員が笑顔になれる支援」を思考し、それを実現するための専門性の向上、職場環境づくりに取り組んでいく。また、災害や感染症など、不測の事態への備えやご利用者の在宅生活がより良いものとなるよう地域包括ケア実現に貢献していく。

【 重点目標 】

1. 業務と職場環境を見直す

- ・紙資源の省力化や業務効率化の為、ネット活用について準備する。
- ・職員同士がケアに対する意見や悩みを話し合える機会と雰囲気をつくる。
- ・人事考課以外の個別面談を半期に1回実施し、意見交換する。
- ・残業を減らし、リフレッシュ休暇取得を奨励する。

2. 専門性の質向上と権利擁護

- ・外部研修の受講奨励とフィードバック講義により知識の定着を促進する。
- ・専門職倫理や制度を定期的に確認し、クライアントの人権や専門職の社会的役割を理解して業務を遂行する。

3. 地域貢献への取り組み

- ・地域包括ケア推進の為、地域の社会資源と連携する。
- ・事業者連絡会や専門職部会に職員を派遣し職種同士、連携する。
- ・地域住民組織等と連携する。

4. 経営の安定と非常時の備え

- ・介護支援専門員1人あたり稼働35件を継続する。
- ・事業所加算Ⅱの算定を継続する。
- ・事業継続計画(BCP)策定や他部署との情報共有、実践訓練に取り組む。
- ・絆システムなど、ICTの活用も検討する。
- ・居宅予防支援会議を活用し、お互いの運営適正状況を確認する。
- ・緊急ケース対応や災害・感染症対応など法人内事業所と協力する。